

スクール フェスティバル

Vol.16

家族のように支え合う

吾平中学校 野球部



▲3年生とともに数々の大会で優勝し、多くの実績を残した



▲新生・吾平中野球部の初日のミーティング。
自分たちが目指すチーム作りを共有する。

吾平中学校野球部は、2年生5人、1年生6人の計11人で活動しています。3年生が9人いたので、部員が約半分になってのスタートですが、ムードメーカーばかりの楽しい野球部です。私は大人しいほうですが、チームをまとめる力があると、みんなからの後押しを受けて、主将になりました。

部員が少ないからこそ、野球部のみんなを「家族」と考え、心身ともに支え合いながら活動したいと思います。最後の総体で最高の結果を出すことを目標に、これから努力を積み重ねていきたいと思っています。



主将
すえつぐ たいせい
末次 大晴 さん(2年生)

公民

地理

歴史

文化

文化財

まちづくり

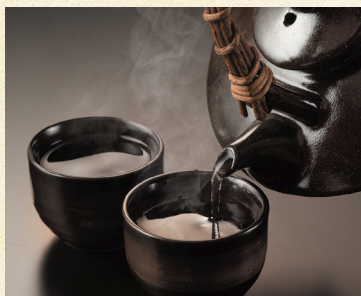
人物

その他

かのや風土記の中身をさらに深掘り

鹿屋街道

第16路 鹿屋の薩摩焼酎



▲黒ぢょか＝主に鹿児島県で使われる
焼酎専用の陶磁器製土瓶(酒器)。

鹿児島には、一日の疲れを癒す晩酌を「だれ(疲れ)やめ(止める)」「ダレヤメ」と呼ぶ文化があるように、鹿児島県の文化と焼酎には密接な関係があります。鹿屋市では江戸時代中期以降に甘藷が伝来・定着し、古くから焼酎が造られてきました。本市の歴史・地理・文化・産業などを記した『鹿屋市史』(平成7年3月発行)には、「焼酎は農漁民たちの唯一の楽しみであり、明治初期の十余年間は、自宅で造って飲めた」と記載されています。明治32年には焼酎の自家製造が禁止され、焼酎は許可を得た酒造のみで造られるようになりました。

時は流れ、戦後になると大手メーカーでは次第に機械化が進み、高品質・低コストの焼酎が

市場に出回り始めました。そのため、大手メーカーに対抗すべく複数の酒造が協業化し、新たな酒造会社となる動きが生まれました。

本市では、昭和46年に吾平町上名に4つの酒造会社の均等出資のもと、小鹿酒造協業組合(現・小鹿酒造(株))が設立されました。昭和50年には、白崎町に9つの酒造が集結して大海酒造協同組合(現・大海酒造(株))が誕生、昭和63年には大根占町神川(現・錦江町)にあった神川酒造が本市で引き継がれました。

水はけのよいシラス台地を土台とする本市は、国内有数のサツマイモ産地。そのため、小鹿酒造は農業法人を設立し、原料からの一貫生産を確立。大海酒造は市内の契約農家との連携によって鮮度にこだわった原料の調達を行うなど、本市ならではの焼酎造りを実施しています。

今ではフルーティー系やお茶割り用など様々な種類の焼酎が販売され、幅広い世代に合わせた焼酎が製造されています。時には家族で鹿屋の薩摩焼酎を味わってみませんか。